

高見島からの報告

西山市朗

塩飽史談会資料平成18.6.10

1. 太閤伝説

太閤の腰掛岩 高見島の浦の大聖寺から竜王道を少し上がった岩倉（イワグラ）にある。
咸陽宮の大瓦の硯 太閤が朝鮮出兵したとき高見島の人も船方としてしたがその
おり、ある武将から貰った物だという。その他、曼荼羅図や釈迦涅槃
槃図もその折持ち帰った物として伝わっていたが、釈迦涅槃槃図は広
島の地福寺の物と同じ物で、室町時代（1400年代）の物である。
丁度、そのときのことを記念するように氏神さん 浦の六社神社（
六所大明神宮）と浜の八幡神社が建てられている。
浦の六社神社にはその時植えられたと思われる松の大木があった。
豊臣家の直参 島の人々は御船方としてはたらき明治までそのことを誇りにしていた。
そして浦の祇園社に豊国大明神の石塔を建て太閤さんを祀っている。
太閤さんからもらったという五三の桐の家紋

2. 江戸時代の墓石に

江戸時代の墓石にも名字の刻まれた墓石がある。

浦の大聖寺境内の墓石に 1792(寛政4)中塚定蔵
1794(寛政6)大倉兵右衛門
1824(文政7)中谷清治郎
1826(文政9)小野忠蔵
文政～嘉永 宮崎安吉信行 宮崎八助
1837(天保8)宮崎武平太
1852(嘉永5)中谷幸重良

と名字の刻まれた墓石が残っている。

その他、

1809(文化6)六社宮献燈の世話人に倉本太左衛門・中谷金三良・中塚好松の名前が刻まれて
いる。

1750(寛延3)浜田外浦に立ち寄った高見島の船として、客船帳に大師丸 船頭中野八左衛
門 松尾丸 船頭大倉治右衛門の名前が記載されている。

1755(宝暦5)浜の八幡神社に奉納されていた弁財船模型に中野八左衛門と大倉好右衛門の
名前が書かれてあった。

1855(安政2)長崎海軍伝習所へ向かった昇平丸に船頭倉本多左衛門 表役大倉常右衛門が
いた。

3. 咸臨丸水夫の墓

「うたの讃岐路」(阿津秋良)の中に

「海見下す島のみ寺の墓地の中咸臨丸船員の墓一つあり 朝田とみゑ」

という短歌が載せられており、

「咸臨丸といえば勝海舟らを乗せて太平洋を渡ったことで知られる。この船員(水夫)の多くは塩飽の人たちであった。・・・・・・・・」

水夫五十人のうち三十五人が塩飽出身。本島十二人、広島十一人、高見島四人、櫃石島三人、佐柳島三人、牛島二人、瀬居島一人であった。

サンフランシスコで源之助と富蔵が死んでかの地に墓があるが、他の多くは無事帰郷してふるさとで生涯を閉じた。

塩飽とくに本島には寺が多く、そこにも多くの水夫たちが眠っている。海の男たちの墓はやはり海を見下す丘にあるのがふさわしいだろう。」

とある。

昭和57年3月発行の「本四架橋に伴う島しょ部民俗文化財調査報告(第2年次)」(瀬戸内海歴史民俗資料館)に、高見島の山下岩吉の墓を間違えて咸臨丸水夫の墓として載せている。

4. 塩飽諸島から消えた一族

たとえば、塩飽氏とか佐柳氏

高見島の島名は高見三郎宗治(浜の三谷氏の土地にあった五輪の塔)からくるもの?

一説に児島高德の五輪の塔ともいう伝承・・・・・・・・室町時代のもの

平家落人伝説があつたり・建久年間(1190~98)に備前国児島から移住して来た人々が高見島その後、佐柳島に住み着いたという伝承。その頃、佐柳島 本浦の乗蓮寺が建てられている。

魚島の隣に高井神島がある。高見島から移ってきたという。浜口氏ほか

5. 櫓漕ぎ唄

ヤーレ おせよさせさせ 船頭も加子もよー

おさなのぼらむよー この瀬戸はよー

ヤーレ 関で女郎こうてよ 本山沖でよー

かぎにやもたれてよー 思案するよー